

議事要旨

(基本情報)

会議名称	第4回立川市学童保育のあり方検討委員会
開催日時	令和7年11月20日(木曜日) 19時00分～20時45分
開催場所	立川市役所 209会議室
次第	1. 開会 2. 現地視察報告 3. 第3回委員会の内容について 4. 検討項目ごとの意見交換 5. その他
配布資料	資料1 第4回 立川市学童保育のあり方検討委員会 資料2 都内学童クラブの業務実態把握のためのアンケート調査概要及び調査結果 参考資料 東京都市町村学童クラブ等実施状況 (令和6年度) 抜粋
出席者	[委員] 小松委員(委員長)、小畑委員(副委員長)、黒葛委員、田尻委員、 鳥澤委員、矢ノ口委員 [事務局] 小川子ども育成課長、今尾学童保育指導支援係長、瀧子ども育成係長、 海野学童保育所係長、保育課保育指導支援係江頭主査
公開及び非公開	公開
傍聴者数	2人

1. 開会

2. 現地視察報告

【委員長】

先日、市内の学童保育所3か所に視察に行った。その報告を共有したい。視察報告について事務局より施設資料の説明をお願いしたい。

【事務局】

(資料1 3～5ページ説明)

【委員長】

参加した委員から感想や意見などはあるか。

【委員】

それぞれに特徴があり、それぞれのいいところを見ることができた。

昭和な雰囲気というのは確かにあったが、それはそれで自分もとても懐かしく、かまぼこ落としても面白いと思った。実際、子どもたちがどう思うかは、子どもたち自身は比べることはできないので、その中で楽しむということになると思う。

学童同士で共通の会のようなもので報告し合ったり、流行っている遊びなど、そういう意見交換があると、いろんなことが広がっていくと思う。

今回見せていただいた学童はどこも先生がとても積極的に子どもと関わって、いい雰囲気気で過ごしていたと感じた。

【委員】

上砂スマイル学童の流し台が一つしかなかったが、おやつのときに 30 人から 40 人の子たちは、手を洗わずに食べるのか、列になって順番に洗うのか。

【委員長】

普通のワンルームマンションと同様のしつらえなので、子どもには高さも高かった。

【事務局】

並んで順番に洗っている。踏み台も用意している。

【委員長】

上砂スマイルは、お子さん 2 人だけだったので通常の様子はわからないが、その他の 2 か所では、子どもたちは笑顔で楽しく過ごしている様子が見られた。それぞれの場所で工夫しながら運営していることはよくわかったが、さらに資料にあるような工夫ができると思う。

欠席された委員から質問等はあるか。

【委員】

インフルエンザで出席がこれだけ少ないと、普段の様子とはかなり違うと思う。普段はもっとにぎやかだったり、待つ時間が長かったりすると思う。また、今の時期はお子さんも先生方も落ち着いている時期であり、年度初めは大変さのあるところだと思う。

【委員】

この 3 か所はそれぞれ違うのだという印象だった。規模によって出てくる問題が違うと思うので、前回にも話があった、東京都の基準をどう満たしていくべきかという（課題は）共通にどこもあると感じた。

【委員長】

高学年の子どもたちがもう少しリーダーシップを取れるような機会があればと感じたが、全体的に見ると、3 年生以上は少なく、登所してくる時間が遅いことも多いので、現実的には難しさもあるかと思うが、何かできるといいと感じた。

他には、意見等ないか。

以上で現地視察の報告を終了する。

3. 第 3 回委員会の内容について

続いて、前回第 3 回委員会の内容について、資料の説明をお願いしたい。

【事務局】

（資料 1 6 ～ 9 ページ説明）

【委員長】

説明された資料の内容についてお気づきの点、質問等はあるか。

【委員】

3 年生以上の退所率が高いが、3 年生以上で退所しない子たちには、理由があると思う。家庭で 1 人では待てない状況や、家庭の方がお子さんに対応できない状況だったりするので、数は少ないが、配慮が必要なお子さんが多いのではないかと思う。（学童保育所で）何か配慮ができるといいと思う。

【委員長】

みんながそうではないかもしれないが、そのような状況はあると思う。

他にいかがか。

【委員】

支援学級のお子さんは高学年の子ども学童に残っている傾向が見られるので、高学年（で在籍している児童）に配慮が必要な子が多いと思う。

【委員長】

資料 8 ページの保育の箇所、内容として誤りではないが、「若い職員の方が、子どもたちの中に入って一緒に遊ぶ傾向がある」という点は、今回の視察では、上砂第三学童保育所は、若い職員が多かったが、子どもに任せて見守るという感じで、大山学童保育所の方は、一緒に入って遊んでいた。日によっても違うと思うが、現実では、それぞれ違っているというところを確認できたので、一概に決めつけてはいけないと思う。

他に意見はないか。

では前回の内容の確認については以上とする。

4. 検討項目ごとの意見交換

【委員長】

運営費と保護者負担、人材確保と職員の処遇ということで検討していく。資料の説明をお願いしたい。

【事務局】

（資料 1 10～12 ページ、参考資料 説明）

【委員長】

運営費保護者負担について、ご意見はあるか。

【委員】

学童保育所に登所している子どもの保護者の意見としては、（保育料・間食費を）上げてよいと思う。（学童は）本当によくやりくりしてくれていると感じていることと、資料にも保護者からの要望があったが、（保育料・間食費を上げることで）できることが増えると思うので、賛成する人の方が多いのではないかと思います。

おやつに関しては、私個人としては、それほど改善をした方がいいとは思っていない。自分の子どもの学童では、いくつかのトレイから一つずつ選ぶ形式で、ヨーグルトやスナック菓子などいろいろあるが、例えば麩菓子とか、自分が普段選ばないようなお菓子を食べる機会がある。「学童で食べてみたら美味しかった」と自分の子どもも言っていたので、そういった楽しさも子どもたちにはあると思う。

親の意見ももちろん考慮するべきと思うが、逆に、おにぎりなどにしたとしても、用意できる範囲で添加物が本当に少ないものにできるかはわからない。であれば、見直しはしていくとしても、子どもたちが実際どう思っているのか意見を取り入れていった方がいいのではないかと感じる。

保護者アンケートでは、（スナック菓子を）肌が荒れながら食べているというような意見もあったが、例えば、おやつを制限されて、（スナック菓子などを）食べられなかった子が、大人になって爆発することは多くある。であれば、いろんな種類のトレイがある中で、「自然派のおやつのおやつトレイからどれから一個、スナック菓子のトレイから 1 個」とか、何か基準がある中で用意している方が納得しやすいと思う。

自分の子ども同級生の子たちも、学童をととても楽しんでいて、特におやつのおやつ時間までいられるかどうか（こだわり）があり、（学童から）早く帰る日は「おやつ終わってから迎えに来て」と言われるので、親として心配な気持ちもわかるが、そういう楽しみも奪ってはいけないと思う。

【委員】

おやつは重要なんだなということが、意見をお聞きして感じた。私の園でも隣に学童があ

るが、おやつの中には「わーっ」と声が聞こえてくるので、やっぱりおやつは大事なんだろうなと思う。

持参したい気持ちがある方は、持参されてもいいではないかと思う。間食費の問題もあるが、それをどう対応するかは別に、よいのではないかと思う。

視察した学童では、キャラクターのせんべいを用意していた。そういった点も意識をしておやつを選んでいて、食べるだけでなく、そういったところも楽しい感じなのかなと思う。

ただ量は少なかったもので、あれだけで6時くらいまで過ごすと、お腹がすいてかわいそうかなと思うので、健康的という意味では、もう少しお腹にたまるものがよいと思う。

全部の学童で統一してやるのは大変なことになってしまい、ちょっと難しい問題である。また、金額の問題も、物価が高騰しているので、難しいところである。

【委員】

おやつの様子では、小袋などに入っているものを提供していて、それを選ぶのが子どもたちはとても楽しそうだった。

おにぎりやお芋など（保護者の要望）もあるが、衛生面や調理できる場所がないことを考えると、その中でよく工夫してくださっていると思う。

先ほどの、食べたことないものを学童で食べることができていいという意見も聞くと、「こんなおやつを楽しんでいます」というような様子が伝えられると、お母さんたちのおやつに対するイメージも変わるのではないかと思う。

以前見た学童では、量が多いところもあったが、学童によって違うのか。

【事務局】

今回視察いただいた上砂第三学童保育所は、洗い物を省力化するため、皿をつかわない、すべて個包装としていることもあり、その分コストがかかっているかと思う。

別の例では、冷凍の焼きおにぎりを解凍して出したりするなど、個包装でないものを提供しているところもある。工夫の仕方はそれぞれの学童で違っている。

【委員長】

上砂第三学童も、一旦はみんな同じ量を配っていたが、その後おかわり分が用意されていて、欲しい子はおかわりができるようになっていた。その子の体による差があるので、対応も難しいところもあるのかと思った。

【委員】

健康的なものにしてほしいとか、市販のおやつでは病気になりそうというご意見の方は、おそらく保育園と比較しての意見ではないかと思う。保育園では調理施設があるので、毎回手作りで、スイートポテトだったり、マカロニにきな粉をかけたものなど、逆に家では作らないような手作りおやつで、マカロニきなこは人気メニューだったが、私が保育園で教わったようなものもある。そういうものを食べていたお子さんたちにとって、いきなり市販のものを週5日というのは抵抗があるのではないかと感じた。学童は調理場所がなく、そういった点を理解していただくような説明があった方がいいと思う。

【委員】

やはり説明が大事だと思う。「こういうものを提供していて、子どもたちは楽しんでいます」といったことを説明して保護者に理解してもらおうと、マイナス視点の意見は減るのではないか。

【委員】

資料の立川市運営負担の状況のグラフもインパクトがある。こんなに市が負担しているのかと思うと、保護者の方も先ほどのような意見が出てこない可能性があるのではないか。

間食費、2,000円を3,000円にするなどは、なかなかハードルが高い。これだけ市が負担してくれているということを示せば、現状で我慢するとか、もし足りない場合は別料金で

足せるようにするのか、方法があるのかはわからないが、考えられるのではないか。

【委員】

給食費や保育料など、無償化の動きがあるが、学童にはアウェー感がある。学校給食では、保護者負担がなくなっている。ただ、実際には税金で賄っているものなので、市の負担ということからすれば決して小さくはないし、徴収がないだけで実は給食費は上がっている状況である。学童では、確かに決して相場的に高額なところをご負担いただいているわけではないが、「未だに取ってますよね」というふうに受け止める保護者の方もいらっしゃる。そこはなかなか説明が難しいところでもある。

【委員】

実際に委員になってこのグラフを見るまで、私はこの負担率を知らなかったもので、それは（周知することは）すごくいいと思う。立川市がこんなに負担しているんだ、というところを見える化した方がよい。

見える化でいうと、例えば厚生労働省が出している、おやつのお小遣金一人当たりならこれぐらいは食べた方がいいなど、そういったデータがあれば、毎月の、学童のお便りや市が発行するものに掲載するとよい。（間食費を）上げないという方向に持つてくのではなく、食べた方が子どもにとって栄養補給になる、といったことや、どれぐらいの量が基準の範囲なのか、などが見えるようにするとよいのではないか。「病気になりそう」などの意見も、イメージでおっしゃっているのかなと思うので、スナック菓子だとしてもこれぐらいは大丈夫などといったことを出していった方が、改善の要望の声も小さくなるのではと思う。

【委員長】

保育園では、毎月お便りや保健だよりなどを出しているが、学童ではそういう情報提供はあるのか。

【事務局】

学校と学童の行事予定のほか、近況を掲載しているところや、おやつをご紹介しているところもあるが、子ども育成課からの事務的なお知らせが多くなっている。

皆さんを引きつけるような記事の掲載がなかなか難しい。また、システムが入っていないため、連絡帳に紙を挟んでお渡ししている状況で、保護者が見る前にどこかに行ってしまうって見ていただけない場合もある。

【委員長】

そう考えると、今のような情報を「見える化」して出していくことは、過度な負担にはならないということか。

【事務局】

負担はあまりない。システムを入れることができれば、システムですぐに見ることができるが、システムの使い方を皆さんに伝えていくのに時間がかかる場所がある。

【委員長】

今の保育料については、（保護者アンケートでは）「適切」というご意見は多いが、場合によっては、ちゃんと理解していただけるよう情報提供することで、保育料を上げるということも含めて検討するのも、一つの意見としたい。

【委員】

学童保育所アンケートにも、「補食になるような物に関しての購入はこの物価高騰の中では買うに買えないことがあります。通常のおやつに関しても質を下げるなどして対応せざるを得ない状況になります。」という現場の声もある。

【委員】

参考資料の表を見ると、月額 1,500 円などの市もあり、間食費だけを取り上げると、2,000 円は高い方になる。

【委員】

保護者の負担がないところもあるのか。

【事務局】

公費負担となっているところは、保護者負担とは切り離して設定している。

【委員】

保育料を 7,000 円、8,000 円に設定している市が、おやつにどれだけかけているのかはわからない。

【委員長】

立川市の運営負担の比率が資料にあるが、他の市の負担割合は出せるか。

【事務局】

それは公開されていない。

保育料がトップの町田市が保育料を見直した際には、国の負担割合にできるだけ近づけるという考えで見直したとは聞いている。具体的な割合については、個別に確認して、お伝えできる可能性はある。

最近保育料を上げたのは、令和元年の小平市。そこからどこの自治体もずっと上がっていない。

課長会議などでは、保育料の値上げについての情報交換は皆さん関心が高い。

【委員】

おそらく所要額がこれで満たされているというよりは、(令和 2 年度以降は) コロナ禍とその後の物価高騰で世相的に値上げを打ち出すには難しさがあるかと思う。

【委員】

他市の保護者負担は、6,000 円から 7,000 円が一番多い。立川市はこのうち 2,000 円が間食費だが、他の市は間食費に充てている金額はわからないということか。

【事務局】

保育料とまとめて徴収しているところはわからない。

間食費を保護者会会計でなく公費としている市は、足りない場合に追加で支出をしているといったことが推測できる。

【委員】

(会計が分かれていることは) 明確といえば明確で、できるのはこの中でということとはわかりやすい。

【委員】

先ほどのおやつの持ち込みについて、アレルギーなどで持参している人はどれくらいいるのか。

【事務局】

保護者にお持ち込みいただいて、間食費をいただいてない取り扱いをしているところもある。件数は今お伝えできないので、調べておく。

ただ、そういった学童では、持ち込む方が複数人いると管理が難しいことや、他の児童と一緒にものを食べたいという面もあり、また一方で、学童で用意する場合、指導員の手順が煩雑になるなど、良し悪しはせめぎあいである。

【委員】

保護者の思いとお子さんの思いは違う。保護者が食べて欲しいと思うものと、子どもが食べたいと思うものは同じではない。

【委員】

参考資料の表で、金額が何パターンかある市は、所得に応じて変えているということか。例えば立川市で、4,000 円から何段階かに分けるとしたら、全体の収入額は減ってしまう

のか増えるのか。その方法を推奨したいわけではないが、どうか。

【事務局】

現状、生活保護世帯等の減免はあり、減免世帯はゼロ、その他は一律 4,000 円としている。所得段階に応じて保育料を設定した場合のシミュレーションは行ったことがないのでわからない。また、所得が高い方を含め、金額を上げることについてコンセンサスを得ることはなかなか難しいと思う。

【委員】

資料を見ると、保護者負担がこんなに少ないのだとわかり、委員のご意見のようにもっと上げてよいという意見もあると思う。

保護者アンケートでは、おやつのことだけでなく、施設のこと、トイレのこと、建物のことなどいろいろな意見が出てきている。この金額で続けているという状況と、保育料を上げるとしたら、何が改善して、どれだけメリットがあるのかがわかるとよい。保護者のニーズに対応しますということが打ち出されると、その必要性とかメリットを感じられるようになると思う。

【委員】

確かに、物価がとても上がっていて、家庭の買い物でも上がっていることを日常の中で感じるので、間食費だけに関しては上げることに反対する方は少ないのではないかな。

【委員長】

保育料に関しても、教材、本やおもちゃを充足するといった説明もできるかもしれない。

では、運営費保護者負担についてはここで区切りとする。

続いて、人材確保と職員の処遇について、事務局より資料の説明をお願いしたい。

【事務局】

(資料 1 13～18 ページ、資料 2 説明)

【委員長】

人材確保と職員の処遇について、東京都の認証学童クラブの基準に合わせるためにも、現状人材が足りないところであるが、厳しい状況が報告された。

何かご意見はあるか。

【委員】

学童保育所だけでなく、保育所全般的に同じような状況である。

学童保育所は、フルタイムといっても、午前中は児童がいないので、長時間勤務しているイメージがない。お手伝いで勤務するのはいいが、一般の人がそこに就職するという感覚になることは、なかなか難しいと思う。ただ、求人をする、学生さんの中には、「学童はありますか」と聞かれる方もいて、保育所の保育士より学童の指導員をやりたいと思っている学生さんはいる。ただ給与の補償とか、複数人職員がいるのかなど、難しいところもあり、実際には就職につながらないという感じだと思う。でも、特に男性の学生さんは小さい子より小学生ぐらいの子との関わりやすく、興味を持っていらっしゃると思うので、そのあたりの処遇（が改善できるとよい）。朝から常勤の職員を 2 人配置することができる、もう少し学生さんも来やすいが、ただそうするとかなりの予算がかかってしまうので、現実的にできるかは難しい。やりたい学生さんはきっといると思う。

【委員長】

実際に本学の場合でも、アルバイトやボランティアで学童に行っている学生は少なくない。また、小学校の免許が取れる学科もあるので、就職先としている卒業生もいる。

保育短大の場合でも、20 人ぐらいが学童も含めた施設に実習に行っているが、児童館併設のようなところが多いので、市内にあるような学童単独の施設ではまだまだ少ない。

【委員】

人材の確保では、例えば一般企業であれば、色々な媒体に求人を出すとか、就職後のイメージを持ってもらうために、広報の担当がSNSを使って社員の1日を紹介するなどあるが、今こういった募集をかけているのか。

【事務局】

市役所の職員として採用する直営学童の会計年度任用職員は、ハローワークと市のホームページのみとなっている。

民間事業者さんは、東京都が運営する福祉の仕事の紹介サイトに出すなど、それぞれ民間事業者さんの、そこにかける費用によって違っていると思う。学童保育の職員で検索するとたくさんでくるので、いろんな媒体に出されていると思う。

それでもなかなか集まっていない状況。直営学童の職員採用の肌感覚でも、最近問い合わせもなく、厳しいと感じている。

【委員】

私の母は元々小学校の教員で教員免許持っていて、あと何年かで定年になるので、その後どうしようかという話をしている。また、私の世代でも転職する人が今すごく多い。

私は、家族が他の市の職員なのだが、家族に聞いて会計年度任用職員を知った。内部の人に聞かないとわからない情報が多いと感じた。

できるかはわからないが、いろんな媒体に求人を出すと費用がかかるので、市のコンテンツの中で、例えば学童の指導員の1日とか、出勤スタイルとかを出すことができれば、イメージを持ってもらうことができるのではないかな。転職をどうしようかと思っている世代や、就職に迷う学生さんも、こういう経歴を持っていたら、今後こうできるかなといった（イメージが持てる）。学童の指導員は素晴らしいお仕事だと思うので、就職先としてや、アルバイトをやってみる入口になればいいと思う。

【委員】

先日、立川市の保育課の事務連絡会で求人の話があった。他市で、市がある雑誌と契約して、福祉の仕事という冊子かチラシのようなものを作ったり、市が学校と提携して求人をするといった話があったので、立川市でもぜひやってくださいという話をした。

例えば福祉の、保育士も学童の指導員もみんな集められる、フェアみたいなものを市で開催してはどうか。年齢問わず、若い人でも中途の方でも、保育所などの仕事をしてみたい人たち、福祉のお仕事をしたい人たちに一斉に来てもらえる。市報に掲載すると結構来ると思う。市役所で開催すると、ここだったら大丈夫と安心してきてもらえる。それがすぐに仕事につながらなくても、こういうところがあるんだと見ていただける場ができるとうい。そういったものを市がやっていただくと、ハードルが下がり、市民の方が安心して参加できる。後で会社等から何回も勧誘に来るとか、そういう問題もなく、理想的だと思う。SNSは特に若い人には大事だが、上のハローワーク世代は、市でやっていただいたら安心して見に行かれると思う。立川市の状況を知っていただいたり、アドバイスいただいたりする、相談できるエリアがあるといいと思う。

【委員】

市によっては周辺市と共同でやったり、委員のご意見のように、いろんな職種を集めて、フェアを仕掛けたりしている市もある。立川市も、正規職員でも就職フェアみたいなところにブースをいただいて、PRをしたりしているが、ぱっと来てくれる方の定着率が実はとても低い。

本当に人の確保は難しく、今は公立保育園も人が埋まらず、人材派遣に頼っている状況がでていて、とても苦しい状況である。

いろんな職種を集めたときに、学童保育の職員は時間も変則的なので、保育園の保育士や、あるいは同じ会計年度任用職員でも、例えば子育てひろばの保育士など類似した職種

に比べると、処遇が安い。比較をされたとき選択されにくさがあり、課題だと思っている。

【事務局】

学童指導員の勤務は、放課後の事業なので変則的で、仕事が見えづらいというところがある。仕事を知ってもらうことが大事なのかなと感じたので、そういうところにもう少し注力して、民間も全て合わせてそういうことができればと思う。

【委員長】

くるプレの紹介の YouTube 動画があるが、あれはお金をかけて作ったのか。

【事務局】

市の職員が撮影したので、コストはかかっていない。

【委員長】

そういう形で、学童保育指導員の一日のような動画を作ろうと思えば、作れるか。

【委員】

くるプレ等の動画は、シティプロモーションで市の事業を紹介しようという取り組みで、特にその中でも子育て支援の部分を立川市としてアピールするということで撮っていただいた。子ども家庭部としては、どちらかというと、学童以外の他の受け皿があるよという、待機児解消で戦略的に使ったりしているが、それぞれの事業の違い、長所も比較的わかりやすく映像で見えていただけるようにはなっている。この働く人版のご提案になるかと思う。

【委員】

やはり学童のシステム自体が、午後から夕方なので、子育てが終わった方が選びやすいのだと思う。学生もやりたいけど、もっと働きたいという人もいるかもしれないし、形態としては難しさがある。

また、人材確保の次に、定着と育成も課題である。（東京都の調査では、）定着率は 51.4% で低くないという結果だが、定着率が低くて「困っている」と「困っていない」がそれぞれ 5 割ぐらいなので、やっぱりこの定着率も課題である。定着の課題として、「精神的負担」があがっているが、指導員の業務は多い。おやつも学童ごとに考えて発注したり、保護者との連絡、宿題管理、発達に課題のある子たちの対応など、かなりやることが多い。学童単位で責任を持ってやる部分と、市が決定して下ろしていくことをつくるなど、働きやすさというところで、精神的負担が少し緩和できるとよい。育成の面では、このアンケートで研修にも触れられているが、実際入ってみただけでも、何を学んでやりたいか、対応に困ったときにケアがあるか、何か学びがあるか、といったところも、定着率に働く。（勤続年数が）5 年から 10 年というのは短い。定着と育成がともに大事である。

【委員】

すぐにできそうなこととして、二つ提案である。

種まきの段階になるが、市内の中学生の職業体験に学童保育所をいれるのはどうか。職業体験で保育園に行った経験で保育士なった友達は結構いる。楽しかったとか、やりがいがあったとか。おやつを買い出しに同行したら、仕事は中にこもっているイメージがあるが、仕事で買い出しに行くことにちょっと意外性を感じたりできるのではないかな。こんな仕事もあると伝えられる。

もう 1 点は、就職フェアの提案について、先日武蔵村山市のデエダラ祭り行ったときに、いろんなブースがあった。そういう必然的に人が集まる場所、他の仕事との比較があまりされない場所、お祭りなどの場であれば、もう少し聞いてくれる人がいるのではないかな。

募集のしかたも、「職員を募集してます」だけでなく「やりくりが得意な主婦の方を募集してます」「子どもが好きな方を探しています」のような、自分が当てはまると思われるような特徴を出して、見せ方というか、ちょっと話を聞いてみようと思われるような見せ方で、興味を持ってもらう分母が少しでも増やせるのではないかなと思う。

【委員】

先日、地元のお祭りに、砂川高校からボランティアが来ていた。ボランティアをすると単位が取れるらしい。学童へのボランティアはやっていないのか。

やってるのであれば、高校と提携をしていけないのではないか。夏休みや、授業時間ともリンクする時間帯だと思う。砂川高校は3部制でいろんな学生さんがいらっしゃるの、学童に来る時間もあると思う。ボランティアをしてもらおうと、その後、進路を考える上で、教職が取れるような学校に行き、将来的に学童保育の職員を目指そうという方が増えるのではないかなと思う。

【委員】

中学校の職場体験に関しては、正確な数字はないが、5日間の中で何時間以上というカリキュラムがある。学童の職員は、通常の学校がある日は、朝8時からの勤務ではないので、おそらく（教育課程に必要な単位の時間数を）満たしてあげられない。今の市立中学校の単位の取らせ方だと、保育園は選べても学童保育を選ばせてあげられない状況である。

【委員長】

児童館は受け入れをしている。

【委員】

保育園で、今、中学生職業体験の受け入れをしている。男の子が3人来たが、あまり保育が好きそうに見えず心配していたが、たまたま今日、学校の学級閉鎖で学童に朝から子どもが数人登所しており、学童の子どもと遊んでいた。

年齢的に小学校低学年くらいの方が、男の子は特に合うと思う。保育園の子だと、間がもたなかったりする。学童の方が理想的で、子どもが好きな子は、（体験することで）学童の指導員はいいなとつながる可能性はある。

【事務局】

児童館は、朝から勤務して、学童の仕事もできる。

【委員】

中学校は受け入れ先を求めているので、営業していく。

【委員】

シビアな話だが、給与（の課題がある）。学生が就職しようというときに、休みが多く、短時間と言う働きやすさの面があることと、一方で、給与面やキャリアを積めるかというところの魅力があるのか。そういったところが子育てを終えた女性が多くなっている要因の一つだと思う。学生が就職する一般企業とは少しニーズが違う点でもある。

【委員】

自分のところの学童保育所は保育所と併設しているので、午前中は保育所で勤めて午後から学童に行くという先生たちも何人かいる。そのようなダブルワークがないと、金額も少なくなってしまう。常勤の職員は保育所の主任級の給料をお支払いしていて、しっかり居てくれるので、コンビネーションはとてもいい。児童館では、そういうことが可能なので、割と人がいらっしゃるんだと思うが、単体の学童では難しい。

【委員長】

せっかく設けられている補助金を現状活用できてない。①（放課後児童支援員等処遇改善等事業）、②（放課後児童支援員キャリアアップ処遇改善事業）は難しいか。

【事務局】

市の取り組みだけではなく、事業者さんに対して負担を強いるところがある。そういった点が、全国的に活用されていない状況に反映されているのかなと思う。

【委員長】

（国に）補助のあり方、条件を見直すように求めることもあってよいと思う。

【事務局】

例えば定期昇給の仕組みづくりという一言で言っても、結構シビアな問題である。

【委員】

保育所の方でもキャリアアップ処遇改善はとても大変である。いただいたお金をうまく分配しようと思うので、うまく分けるように努力し、さらに報告書も作成することとなり、とても複雑。処遇改善とキャリアアップ処遇改善と全部一つにまとめなければいけないため、手続きが煩雑でお手上げなので、社労士さんに頼んでいる。それが学童にも来ると、確かに事業者にかかなりの負担がある。月額 9,000 円の処遇改善だけでも、結構やり直しが出てしまったりしている。

【委員】

それに見合うだけのメリットがない。キャリアアップ処遇改善では、入職何年目の先生が、何の研修を何回受けて、園でどんな業務をしているのか、というような詳細な情報が必要で、非常に事務も煩雑である。

【委員】

決められた研修に出るために時間も取られる。

【事務局】

様式に合った賃金台帳を全員分用意するのも大変である。

【委員】

(学童と保育所の補助金は) 同じシステムでない方がよい。保育所と同様の補助になっているが、学童保育所は、そんなに人員もいなければ時間数も短いので、もう少し簡易だとよいと思う。

【委員】

違う職種になるが、介護職場も同じような処遇改善があるが、やはり事業者さんはどこも事務的な負担があって大変だという話は聞く。国の方は、補助は用意している、というのが実際には難しい。

【委員】

年々複雑になる。今年できても、次の年に要綱や様式が変わってしまい大変になる。

【委員長】

もっと(補助を)活用できるように、書類を減らすという要望は出せるか。

【事務局】

国に直接ではないが、東京都の自治体が共同でご提案はできる。(補助に関することも) 課題にあがっており、予算要望はしている。事務手続きなどの細かいことは提案できていないが、手続きについて課題には出てきている

【委員】

月額 9,000 円の処遇改善でも、児童館など他事業の職員と格差が生じるため、学童指導員だけに活用できないところもあり、難しい。

【委員長】

全体として底上げができるといい。とはいえ、市独自に予算を運用するのも難しいか。

【事務局】

厳しい状況である。

【委員】

保育園の場合でも居住支援、住宅費補助があるのは、(就職動機として) かなり大きいと伺っており、だんだんそういうことまでも考えていかないと人の確保ができないのと感じている。

以前いただいたご意見では、人を採用して担当(職場)を市内各所に割り振る際に、交通

不便なところに割り当てられてしまうと（勤務を）継続しにくいというご意見もあった。

【委員】

処遇などは、他市との差はどのぐらいあるのか。

【事務局】

その比較はしていない。

【委員】

立川市が他市に比べて悪いのであれば、市に要望しないといけないし、良いとすれば、そこをアピールして、他市から来ていただくことができるかもしれない。

【事務局】

直営については、会計年度任用職員制度になって、育休など休暇は充実しており、ボーナスが出るなど、福利厚生的なところが民間に比べて充実しており、メリットを感じて来てくださっている方もずいぶんいると思う。

【委員】

以前は、会計年度任用職員は更新4回までと回数制限をされて、期間が終わるので転職するという方がいたが、今はその制限もなくなり勤続しやすくなっていると思う。

【委員】

学童指導員を経験している方は、戻りやすい。介護などで辞めても、お声かけすると来てくださったたり、1回就職すると再就職しやすいメリットはあると思う。

【委員長】

実際、放課後子ども教室のスタッフだった人が、学童に職場が変わった人もいる。年齢的にやっぱり上の方にはなる。

先ほどのご意見でも、小学校教員をやめた後の（転職の）お話もあったが、子どもに関心を持つ市民の方はたくさんいると思うので、そういう方たちがうまく、やってみようかなと思えるような情報提供をしていただきたい。

【委員】

潜在保育士の方やブランクがある方でも、学童保育はブランクを感じにくいかもしれない。ずっと遊びが昭和なものもあるかもしれないが。例えば医療の現場では、数年離れてしまうと、なかなか取り戻しが難しい領域もあるが、学童保育に関しては、そういった（戻りやすい）ところも期待はできるのかなと思う。

【委員長】

アンケートの結果など、事務局からの説明以外のところで何か質問等はないか。

この委員会の中でも出てきている意見であるが、資料2の12ページで、「研修を実施することが重要」という回答率が高く、資格の問題と関わりあるかと思うが、現状の研修のあり方をさらに充実していったり、施設間の共有を考えていくことが、大事だと改めて思った。

他にご意見はないか。

では、次第5その他に移る。

5. その他

【事務局】

次回は、第5回は12月16日を予定している。

【委員長】

それでは、本日の会議はこれで終了とする。